

■ 環境・社会ビジョン

環境ビジョン

「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」

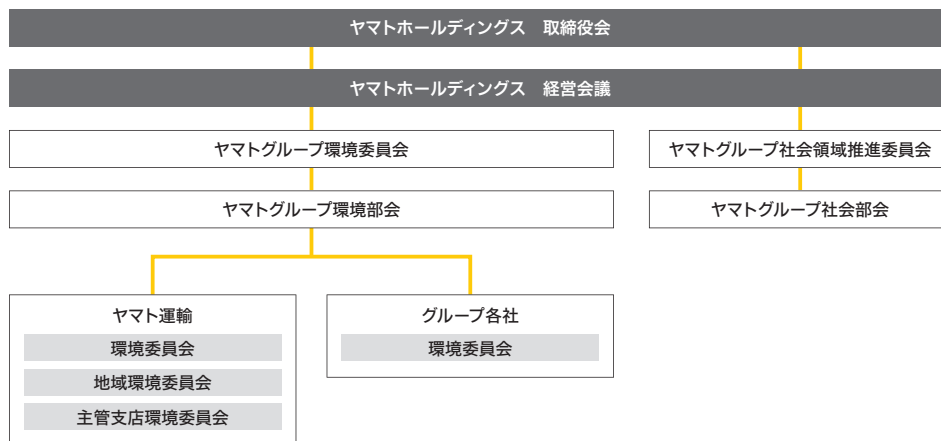
社会ビジョン

「共創による、フェアで、
“誰一人取り残さない※”社会の実現への貢献」

※誰一人取り残さない：SDGsが掲げる基本理念

サステナビリティ推進体制

ヤマトグループは、サステナビリティに関する重要事項について、経営会議および取締役会で審議・決議を実施しています。また、サステナブル経営を推進するため、代表取締役社長を委員長、ヤマト運輸の執行役員等および主要グループ会社社長を構成員とするヤマトグループ環境委員会およびヤマトグループ社会領域推進委員会を年1回開催し、サステナビリティに関する課題について審議や決議を実施しています。そして、環境の分野では3つの部会（エネルギー・気候・大気、資源・廃棄物、マネジメント・協働）、社会の分野では3つの部会（人権・ダイバーシティ、サプライチェーンマネジメント、地域コミュニティ）をそれぞれ年3回開催し、施策の検討や進捗確認を実施しています。



サステナビリティ・ガバナンスの進化

課題認識

これまでの当社のマテリアリティは、社会的インフラとしての責任を全うし、社会的な「信頼」を獲得することを主眼として、環境価値や社会価値の創出に注力してきました。今後は、獲得した強固な信頼を基盤とし、社会への貢献と確かな経済価値創出を両立する次なる成長フェーズへと移行します。環境・社会課題を解決するビジネスモデルの進化を通じて経済価値を生み出し、社会や物流業界全体の持続性を高めるとともに、当社グループの新たな収益基盤として事業成長を加速させていきます。

進化の方向性

各取組みが自社のBS（資産）やPL（利益）に与える影響を可視化・定量評価する仕組みを構築し、投資判断プロセスに組み込みます。「守り」のリスクマネジメントで環境・社会への負荷を将来の負債と捉え、不確実性を抑制するとともに、「攻め」として社会課題の解決を新たな収益源へと転換します。コスト削減と収益増の両面からサステナビリティを事業戦略に統合し、実効性のあるインパクトを生み出すことで、将来にわたるより強靱な財務基盤の構築を実現します。

具体的なアクション

財務・事業部門が連携し、サステナビリティの各課題が具体的に企業価値のどの要素（コスト削減や売上増など）に貢献するかを検証し、事業戦略に落とし込むことで、マテリアリティの進化を図ります。加えて、各事業部の予算目標に環境・社会由来の効果指標を導入するほか、経営幹部の評価においてESG指標をより重視するなど、組織と個人の両軸で行動変容を強力に促し、サステナビリティへの取組みを持続的な企業価値向上へとつなげていきます。

マテリアリティ

ヤマトグループの事業における「リスク」と「機会」を踏まえ、持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に資するマテリアリティを特定しました。中でも、「エネルギー・気候」「労働」「人権・ダイバーシティ」「データ活用・セキュリティ」は、ヤマトグループのサステナビリティにとって特に影響の大きいマテリアリティと認識しており、経営戦略と連動した取組みを推進しています。

STEP 1 マテリアリティ候補の絞り込み

GRI、SASB、ISO26000、SDGsなどの国際的な枠組みや、投資家がヤマトグループにとって重要性が高いとしているESG調査項目などに基づき、事業のリスク・機会を実績データより考察し、マテリアリティ候補を絞り込み

STEP 2 ステークホルダー・ダイアログ（2019年11月）

大学や国際機関、証券会社などより有識者を招き、環境や社会の課題解決に向けてヤマトグループに期待する役割や、マテリアリティについて意見交換

STEP 3 マテリアリティ項目の特定（2020年1月）

マテリアリティを特定するとともに、中長期の経営のランドデザインである経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」を策定

サステナビリティ目標の進捗状況

対象範囲: 国内連結会社および(株)スワン

領域	マテリアリティ	戦略(目指す姿)	リスク/機会	2027年3月期主要目標	2026年3月期実績	進捗・課題
環境	 エネルギー・気候	再生可能エネルギー由来電力の利用や輸送の効率化、ドライアイスの削減などにより温室効果ガス(GHG)排出量の削減を図る	リスク 機会	GHG 自社排出量 25% 削減(2021年3月期比) ^{※1}	20% 削減 ^{※1}	計画どおり進捗
				再生可能エネルギー由来電力利用率 70%	68%	計画どおり進捗
				Scope3のGHG 排出量削減目標設定完了	輸送パートナーのGHG 排出量把握方法(実測値)を検証・確定	一部課題は残るが排出量把握を継続推進
	 大気	自動車による大気への影響を減らし、地域の空をきれいにする輸送を追求する	リスク	自動車 NOx・PM 排出量40% 削減(2021年3月期比)	自動車 NOx:56%削減 PM:52%削減	計画どおり進捗
	 資源循環・廃棄物	環境負荷を抜本的に減らし、環境影響を最小化する技術の利用や機会創出を進める	リスク 機会	紙材における再生可能資源・再生材利用率 65%	64%	計画どおり進捗
社会	 社会と企業のレジリエンス	多様なパートナーと協働し、ステークホルダーや地域社会のレジリエンスを高め、環境価値を生み出す	リスク 機会	環境投資や実証のノウハウを活用したサービスの提供	温室効果ガス排出量提供サービス 全国リリース	計画どおり進捗
	 労働	労働の高付加価値モデルの実現やディーセント・ワークを推進する	リスク 機会	エンゲージメントの向上	社員意識調査結果 働きやすさ:69% 働きがい:60% 働き続けたい:69% 成長実感:64% 貢献実感:63%	職場改善施策を展開
	 人権・ダイバーシティ	人権を尊重し、多様性を認め合い、人権デューデリジェンスの仕組みを構築する	リスク 機会	人権ハラスメント教育受講率 100% 女性管理職比率 10% 障がい者雇用率 3.1%	人権ハラスメント教育受講率 100% 女性管理職比率 6.9% 障がい者雇用率 3.1%	継続的なキャリア開発支援を推進
	 安全・安心	交通・労働の安全を確保し、「安心なサービス」を提供する	リスク	対人交通事故件数15% 削減(2024年3月期比) ^{※2} 休業災害度数率15% 削減(2024年3月期比) ^{※2}	対人交通事故件数 17.8% 削減 ^{※2} 休業災害度数率 5.3% 削減 ^{※2}	労働安全衛生マネジメントの強化
	 データ活用・セキュリティ	情報セキュリティの基盤を構築し、データ活用により、社会課題解決ビジネスを創出する	リスク 機会	情報セキュリティ教育受講率 100% 情報セキュリティ重大事故 0件	情報セキュリティ教育受講率 100% 情報セキュリティ重大事故 2件	グループ全体でサイバーセキュリティを強化
	 サプライチェーンマネジメント	健全でレジリエンスなサプライチェーンによる安定した事業基盤の構築を図る	リスク 機会	主要なビジネスパートナーの行動規範順守への賛同取得率100%	主要なビジネスパートナーの行動規範順守への賛同取得率 100%	計画どおり進捗
	 地域コミュニティ	ヤマトグループらしい企業市民活動を実施する地域経済を活性化させるビジネスモデルを構築する	機会	地域・グループ会社も含めた企業市民活動の浸透	各組織で選任されたアンバサダーを中心に地域独自の取組みが定着し、活動が拡大	計画どおり進捗

※1 日本国内連結および(株)スワンの自社排出(Scope1とScope2) ※2 対象範囲:ヤマト運輸(株)

▶ すべてのサステナビリティ指標・目標については、当社ウェブサイトをご参照ください。 <https://www.yamato-hd.co.jp/csr/goals/>